



MAEHARA 20th

桐生の織物史に大きな足跡を残す飯塚春太郎氏が創業した飯塚機業の織物工場として昭和7年に建設されたノコギリ屋根工場である。ノコギリの歯は6連、大谷石造りの外壁は西洋の古城を思わせる圧倒的な存在感を持った建物である。春太郎氏は桐生の輸出織物のパイオニアとして活躍し、「タフタ」や「スパンクレープ」というインド向けの織物を開発。信用第一、言行一致を貫き、織物工場の近代的経営にも手腕を発揮、衆議院議員も務め、桐生織物史に名を留める。

戦時中は日本音響（ビクター）の軍需工場となり、戦後は東毛蚕糸、日本レイヨン、ユニチカ、ユニチカサンシと日本の繊維産業の変遷とともに歩んだ。昭和60年にユニチカサンシが製糸業から撤退すると、創建者の飯塚機業が建物を買い取り、内部を改装し、自社のショールームとして活用した。

平成15年に現所有者である前原勝良氏が「自動車博物館」を開設、自らのコレクションであるクラシックカーを展示する私設博物館「MAEHARA 20th」として再生を果たした。50年以上も前の「観音開きクラウン」をはじめ、歴代のトヨタクラウンなどを展示。不定期の開館ながら、桐生の産業観光の展開に厚みを加えている。

- 代表者／前原勝良氏
- 住所／桐生市広沢町6-850-5
- 電話／0277-22-2417（開館日以外）
0277-52-7927（開館日のみ）
*現在、東日本大震災のため臨時休館中

繊維産業の変遷と
ともに歩む自動車博物館

